

大豆害虫マメシクイガに対する各薬剤の防除適期

【1 成果概要】

- (1) マメシクイガに対する薬剤防除時期は、産卵時期（県中地域は9月第1半旬頃、県北地域は8月第6半旬頃）を基準にします。
- (2) 最も防除効果のある時期は、MEP乳剤（商品名：スミチオン乳剤）で産卵盛期、エトフェンプロックス乳剤（商品名：トレボン乳剤）およびペルメトリン乳剤（商品名：アディオオン乳剤）で産卵盛期より1半旬前、クロラントラニリプロール水和剤（商品名：プレバソフロアブル5）で産卵盛期より1～3半旬前です(表1)。



図1 マメシクイガ被害粒

表1 各薬剤の最も防除効果が得られる時期(成虫の発生盛期が8月第6半旬頃の場合)

薬剤名 (商品名)	系統名	8月					9月				
		半旬	2	3	4	5	6	1	2	3	4
MEP乳剤 (スミチオン乳剤)	有機リン剤							◎	○		
エトフェンプロックス乳剤 (トレボン乳剤)	合成ピレスロイド剤					○	◎	○			
ペルメトリン乳剤 (アディオオン乳剤)						○	◎	○			
クロラントラニリプロール水和剤 (プレバソフロアブル5)	ジアミド剤				◎	◎	◎	○			
マメシクイガ発生消長(北上)											
— : 成虫 ↓ : 産卵盛期(推測)											

防除効果の評価 ◎：最も効果のある防除時期 ○：効果のある時期

【2 留意事項】

- (1) 県北地域はマメシクイガの発生時期が県中地域より1半旬程度早まりますので、防除適期も表1より1半旬早まります。
- (2) クロラントラニリプロール水和剤は、他剤と比較して防除適期幅は広いですが、カメムシ類には効果がないので、カメムシ類の発生が見られる場合は効果のある剤を使用してください。